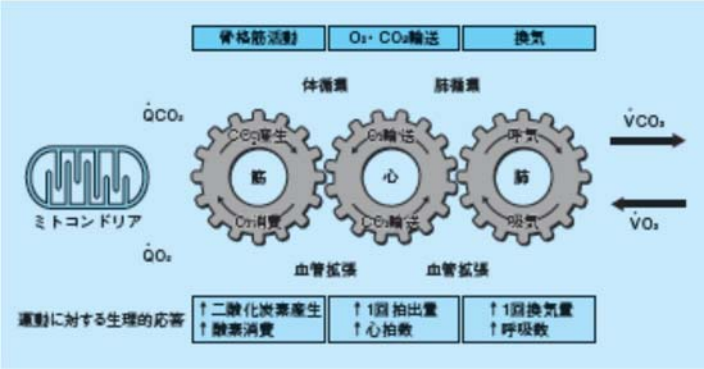
15 レクチャー理学療法テキスト『内部障害理学療法学 呼吸』正誤表-初版第 1 刷をお持ちの方

■初版第 1 刷をお持ちの方

頁・箇所	誤	正
xvii　一般目標	「老人」	「高齢者」
p3　図 3		**（さしかえ）** 
p7　6 行目	「その他必要な総合的な理学療法的介入」	「その他~~必要な~~総合的な理学療法的介入」
p12　5 行目 下から 5 行目	「上気道は吸入された粗大な異物を補捉し排除するとともに」 「気管支は分岐が進むに連れて細くなり（細気管支），」	「上気道は吸入された粗大な異物を捕捉し排除するとともに」 「気管支は分岐が進むに連れて細くなり，」
p13　下から 4 行目	「後上方から肋骨面に従って前上方に回って走る．」	「～後上方から肋骨面に沿って前下方に回って走る．」
p15　図 8　胸椎上面	「横突助骨窩」	「横突肋骨窩」
p20　17 行目	「頸屈曲時に」	「頸部屈曲時に」
p22　図 2		**（さしかえ）**
p23　図 3	「助間筋」 「助間神経」 「助肋間筋」	「肋間筋」 「肋間神経」 「外肋間筋」
p26　19 行目	「動脈血二酸化炭素分圧（$PaCO_2$）は分時肺胞換気量（$\dot{V}_A$）に比例し，二酸化炭素産生量（$\dot{V}CO_2$）に反比例する．」	「動脈血二酸化炭素分圧（$PaCO_2$）は分時肺胞換気量（$\dot{V}_A$）に反比例し，二酸化炭素産生量（$\dot{V}CO_2$）に比例する．」
p27　サイドノート 下から 8 行目	「測定誤差が出ることや，」	「測定誤差が出ることがあり，」
p29　下から 4	「呼気位と最大吸気位」	「最大呼気位と最大吸気位」

15 レクチャー理学療法テキスト『内部障害理学療法学 呼吸』正誤表-初版第 1 刷をお持ちの方

行目 サイドノート		「最大呼気量（inspiraratory capacity：IC）」	「最大吸気量（inspira~~ra~~tory capacity：IC）」
p30 サイドノート 17 行目 20 行目 図 11		「努力性肺活量（force vital capacity：FVC）」 「一般的に正常と判定されるのは%VC＞80%かつ $FEV_{1\%}$＞70%であり，%VC＞80%かつ $FEV_{1\%}$＜70%を閉塞性換気障害，%VC＜80%かつ $FEV_{1\%}$＞70%を拘束性換気障害，%VC＜80%かつ $FEV_{1\%}$＜70%を混合性換気障害と判定する.」 「**図 9** に示したとおり,」 「75%VC」「50%VC」「25%VC」	「努力性肺活量（forced vital capacity：FVC）」 「一般的に正常と判定されるのは%VC≧80%かつ $FEV_{1\%}$≧70%であり，%VC≧80%かつ $FEV_{1\%}$＜70%を閉塞性換気障害，%VC＜80%かつ $FEV_{1\%}$≧70%を拘束性換気障害，%VC＜80%かつ $FEV_{1\%}$＜70%を混合性換気障害と判定する.」 「**図 9** に示したとおり，肺活量（VC）は」 「75%FVC」「50%FVC」「25%FVC」
p39 サイドノート		（重複されて印字されている箇所）	「などをきたす. 非侵襲的陽圧換気」
p48 サイドノート		「1～200（pack-years）：軽度 201～600（pack-years）：中等度 601～（pack-years）：高度」	「1～200~~（pack-years）~~：軽度 201～600~~（pack-years）~~：中等度 601～~~（pack-years）~~：高度」
p64	4 行目	「日常生活役割機能，（精神）社会生活機能,」	「日常生活役割機能（精神），社会生活機能,」
p68	16 行目 表 1	「③体重減少率（%LBW〈loss of body weight〉）：平常時体重からの減少率で，体重減少（kg）/［現在の体重（kg）＋体重減少（kg）］で求める.」 「上腕筋囲」	「③体重減少率（%LBW〈loss of body weight〉）：平常時体重からの減少率で，体重減少（kg）/［現在の体重（kg）＋体重減少（kg）］×100 で求める.」 「%上腕筋囲」
p73 サイドノート	10 行目	「COPD 患者の呼気終末における気道の閉塞や肺胞の虚脱を防止する目的で行う呼吸法である.」 「②呼吸数や換気量，機能的残気量を減らし,」	「口すぼめ呼吸とは，COPD 患者の呼気終末における気道の閉塞や肺胞の虚脱を防止する目的で行う呼吸法である.」 「②呼吸数や分時換気量，機能的残気量を減らし,」
p75	3 行目	「視覚的または聴覚的フィードバックする」	「視覚的または聴覚的にフィードバックする」
p78	参考文献	1）干住秀明ほか（監）	1）千住秀明ほか（監）

15 レクチャー理学療法テキスト『内部障害理学療法学 呼吸』正誤表-初版第 1 刷をお持ちの方

p80　18 行目	「重症心身障害児」	「重症心身障害~~児~~」
p81　図 1「中葉」の段中央	「左中葉区（$S_{4,5}$） （10°頭低後傾側臥位）」	「右中葉区（$S_{4,5}$） （10°頭低後傾側臥位）」
p88　下から 2 行目	「適応範囲が広く，未熟児から成人・高齢者，さらには神経筋疾患など，幅広い症状に効果が認められている.」	「適応範囲が広く，未熟児から成人・高齢者，さらには神経筋疾患患者など~~，幅広い症状~~に効果が認められている.」
p92　13 行目 下から 17 行目 下から 4 行目	「吸気筋トレーニングによる吸気機能の改善は呼吸困難軽減に期待できる.」 「呼吸介助法の適応は，急性期および慢性期を問わず呼吸困難を認める症例が主なものであるが,」 「①セラピストは，患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，状態を安定させる.」	「吸気筋トレーニングによる吸気機能の改善は呼吸困難の軽減が期待できる.」 「呼吸介助法の適応は，主に急性期および慢性期を問わず呼吸困難を認める症例~~が主なもの~~であるが,」 「①~~セラピストは，~~患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，姿勢を安定させる.」
p93　10 行目 14 行目 下から 15 行目 下から 5 行目	「①セラピストは，患者の頭上に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，状態を安定させる.」 「③患者の呼気に合わせて，肘関節を屈曲させながら患者の身体に近づき胸郭を腹側下方へ圧を加える.」 「①セラピストは，患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，状態を安定させる.」 「②肘関節を屈曲し，腋を軽く開いた状態で患者の下部胸郭（鎖骨中央線上の第肋骨と中腋下線上の第 8 肋骨を結んだ線より上）に手掌を当てる.」 「⑤下部胸郭の前方からの圧迫は，肋骨に骨折が生じる危険性があるため，側方から圧を加える.」	「①~~セラピストは，~~患者の頭上に~~，~~一側下肢を一歩前方へ出して立ち，姿勢を安定させる.」 「③患者の呼気に合わせて，肘関節を屈曲させながら患者の身体に近づき胸郭に腹側下方へ圧を加える.」 「①~~セラピストは，~~患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，姿勢を安定させる.」 「②肘関節を屈曲し，腋を軽く開いた状態で患者の下部胸郭（鎖骨中央線上の第肋骨と中腋窩線上の第 8 肋骨を結んだ線より上）に手掌を当てる.」 「⑤下部胸郭の前方からの圧迫は，肋骨に骨折が生じる危険性があるため，側方から介助する.」
p94　4 行目	「①セラピストは，患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，状態を安	「①~~セラピストは，~~患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，姿勢を安定させる.」 「③呼気に合わせて，膝関節と肘関節を屈曲させながら

	8 行目 下から 12 行目 下から 9 行目 下から 2 行目	定させる.」 「③呼気に合わせて，膝関節と肘関節を屈曲させながら患者の身体に近づき，胸郭を腹側下方へ圧を加える.」 「①セラピストは，患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，状態を安定させる.」 「②肘関節を屈曲し，腋を軽く開いた状態で患者の下部胸郭（鎖骨中央線上の第肋骨と中腋下線上の第 8 肋骨を結んだ線より上）に手掌を当てる.」 「側方から圧を加える.」	患者の身体に近づき，胸郭に腹側下方へ圧を加える.」 「①~~セラピストは，~~患者の骨盤の横に，一側下肢を一歩前方へ出して立ち，姿勢を安定させる.」 「②肘関節を屈曲し，腋を軽く開いた状態で患者の下部胸郭（鎖骨中央線上の第肋骨と中腋窩線上の第 8 肋骨を結んだ線より上）に手掌を当てる.」 「側方から介助する.」
p95	14 行目 下から 15 行目 下から 14 行目 下から 8 行目 最終行	「圧は,」 「セラピストは患者の後方に座り,」 「患者の腋下より両上肢を挿入し,」 「セラピストは患者の後方に近づいて座り,」 「セラピストは背臥位の患者の側方に立ち，状態を安定させる.」	「圧迫は,」 「~~セラピストは~~患者の後方に座り,」 「患者の腋窩より両上肢を挿入し,」 「~~セラピストは~~患者の後方に近づいて座り,」 「~~セラピストは~~背臥位の患者の側方に立ち，姿勢を安定させる.」
p96	8 行目	「セラピストは背臥位の患者の側方に立ち，状態を安定させる.」	「~~セラピストは~~背臥位の患者の側方に立ち，姿勢を安定させる.」
p97	下から 10 行目 下から 9 行目	「状態を安定させる.」 「セラピストは,」	「姿勢を安定させる.」 「~~セラピストは,~~」
p98	2 行目 3 行目 4 行目 16 行目 17 行目 18 行目	「状態を安定させる.」 「セラピストは患者の後方に近づいて立ち,」 「中腋下線上の」 「上体を安定させる.」 「セラピストは患者の後方に近づいて立ち」 「中腋下線上の」	「姿勢を安定させる.」 「~~セラピストは~~患者の後方に近づいて立ち,」 「中腋窩線上の」 「姿勢を安定させる.」 「~~セラピストは~~患者の後方に近づいて立ち」 「中腋窩線上の」

15 レクチャー理学療法テキスト『内部障害理学療法学 呼吸』正誤表-初版第 1 刷をお持ちの方

p115 上から 15 行目	「カニュラを長く延長し，」	「カニュラを~~長く~~延長し，」
p118 上から 8 行目	「①予測肺活量 1 秒量」	「①予測肺活量 1 秒率」
p120 下から 17 行目	「呼吸筋の低下により」	「呼吸筋力の低下により」
p121 サイドノート	「不感蒸泄は」	「不感蒸泄量は」
p122 上から 10 行目	「患者回路には，」	「患者回路~~に~~は，」
p128 2 行目 下から 11 行目	「環境下では」 「関節の可動域制限が起こりやすい部位や運動として，肩関節では屈曲，外転，内旋・外旋，肘関節屈曲・伸展，股関節屈曲・内旋・外旋，膝関節屈曲・伸展，足関節背屈などであり，」	「環境~~下~~では」 「関節の可動域制限が起こりやすい~~部位や~~運動として，肩関節~~では~~屈曲，外転，内旋・外旋，肘関節屈曲・伸展，股関節屈曲，内旋・外旋，膝関節屈曲・伸展，足関節背屈などがあり，」
p129 表 1	「十分な咳嗽がある」	「十分な咳嗽がある」←太字を解除
p135 下から 13 行目	「呼吸困難感の軽減」	「呼吸困難~~感~~の軽減」
p140 下から 6 行目	「患者教育も呼理学療法において」	「患者教育も呼吸理学療法において」
p141 下から 7 行目	「呼吸困難感の軽減」	「呼吸困難~~感~~の軽減」
p144 下から 12 行目	「筋弛緩を使用した人工呼吸時において」	「筋弛緩薬を使用した人工呼吸時において」
p149 サイドノート	「腹臥位やセミリカベント（ギャッジアップ）位は」	「腹臥位やセミリカベント~~（ギャッジアップ）~~位は」
p150 下から 10 行目	「ギャッジアップ，」	「ヘッドアップ，」
p166 問題 Ⅲ 問題 1 の 3 行目	「PaO_2 124torr，」	「PaO_2 124Torr，」
p168 配点	「1 点（完答）4 点　40 点」	「1 問（完答）4 点　40 点」